



京劇 演目：『大登殿』

主 演：賀静軒(が・せいけん)、李宸飛(り・しんひ)、秦爽(しん・そう)、王秀(おう・しゅう)

『大登殿』は、中国の古典恋愛物語に基づいた京劇の代表的な演目です。

主人公の王宝釧は、貴族の娘でありながら、貧しい青年・薛平貴への愛を貫き、家を出て寒窯で18年間、彼の帰りを待ち続けます。やがて薛平貴は皇帝となり、帰国して功績を称えられ、朝廷にて「大登殿」の場面を迎えます。

この「大登殿」の場面では、王宝釧が長年の苦難の末に皇后として正式に認められる様子が描かれます。

一方、西涼国の王女・代戦公主は、武芸に秀でた勇敢な女性であり、かつて戦場で薛平貴の命を救い、その後、彼を助けて西涼の王位に就かせました。二人は夫婦となり、数年間、睦まじく暮らしますが、薛平貴の心には常に寒窯に残した元の妻・王宝釧の存在がありました。

薛平貴が唐に帰国してから三年が経っても戻らないことに業を煮やした代戦公主は、夫への想いを募らせ、ついに自ら軍を率いて長安まで追いかけてきます。しかし宮門で足止めされ、夫に会うことすら許されません。

悲しみと怒りを抱えた代戦公主は大殿に乗り込み、朝廷の面前で薛平貴を問い詰め、自らが正妻であることを堂々と主張します。

彼女は文武百官、薛平貴、そして王宝釧という三者の対峙の中で毅然と振る舞い、最終的には王宝釧の理解と譲歩を得て、三人はわだかまりを解き、「和合円満」の結末を迎えることとなります。